

4-1-3 釜無川橋りょう他

環境保全措置の実施状況を表4-1-3-1、写真4-1-3-1～写真4-1-3-17に示す。なお、令和2年11月公表の「中央新幹線山梨県内高架橋ほか新設工事における環境保全について（白井阿原地内）」で示した中央新幹線山梨県内高架橋ほか新設工事の一部区間は、釜無川橋りょう新設工事の施工区間に内包されるため、工事中にする環境保全措置は、釜無川橋りょう新設工事における内容の一部として、まとめて記載する。

表4-1-3-1(1) 令和3年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	令和3年度に実施した環境保全措置	備考
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) 	排出ガス対策型建設機械の採用	写真 4-1-3-1
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等) ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス 	工事規模に合わせた建設機械の設定	—
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・騒音 ・振動 	建設機械の使用時における配慮	写真 4-1-3-2
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス 	建設機械の点検及び整備による性能維持	写真 4-1-3-3
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・騒音 ・振動 ・動物 ・植物 ・温室効果ガス 	工事従事者への講習・指導	写真 4-1-3-4
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等) ・騒音 ・振動 	工事の平準化	—
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス 	資材及び機械の運搬に用いる車両の点検及び整備による性能維持	—

表4-1-3-1(2) 令和3年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	令和3年度に実施した環境保全措置	備考
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・騒音 ・振動 	資材及び機械の運搬に用いる車両の運行計画の配慮	—
	環境負荷低減を意識した運転の徹底	—
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (粉じん等) 	仮囲いの設置	写真 4-1-3-5
	工事現場の清掃及び散水	写真 4-1-3-6 写真 4-1-3-7 写真 4-1-3-17
	資材及び機械の運搬に用いる車両の出入り口、周辺道路の清掃及び散水、タイヤの洗浄	写真 4-1-3-8
	荷台への防じんシート敷設及び散水	—
<ul style="list-style-type: none"> ・騒音 	低騒音型建設機械の採用	写真 4-1-3-1
<ul style="list-style-type: none"> ・騒音 	仮囲い・防音シート等の設置による遮音対策	写真 4-1-3-5 写真 4-1-3-16
<ul style="list-style-type: none"> ・水質 (水の濁り、水の汚れ) ・土壌汚染 	工事排水の適切な処理	写真 4-1-3-9
<ul style="list-style-type: none"> ・水底の底質 	河川内工事における工事排水の適切な処理	写真 4-1-3-10
<ul style="list-style-type: none"> ・水質 (水の濁り、水の汚れ) 	仮締切工の実施	写真 4-1-3-11
	工事排水の監視	写真 4-1-3-12
	処理装置の点検・整備による性能維持	写真 4-1-3-12
<ul style="list-style-type: none"> ・土壌汚染 	資機材置き場等における掘削土砂の適切な管理	写真 4-1-3-13
	有害物質の有無の確認と基準不適合土壌の適切な処理	—
<ul style="list-style-type: none"> ・日照障害 	鉄道施設(嵩上式)の構造物の形式・配置等の工夫	—
<ul style="list-style-type: none"> ・電波障害 	鉄道施設(嵩上式、駅)の構造物の形式・配置等の工夫	—

表4-1-3-1(3) 令和3年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	令和3年度に実施した環境保全措置	備考
・文化財	遺跡の発見に伴う届出	—
・動物 ・植物	汚濁処理施設及び仮設沈砂池の設置	写真 4-1-3-9
・景観	構造物の形状の配慮	—
・人と自然との触れ合いの活動 の場	鉄道施設の形状等の工夫による近傍 の風景への調和の配慮	—
・廃棄物	建設汚泥の脱水処理	—
	建設発生土の再利用	—
	発生土を有効利用する事業者への情 報提供	—
・廃棄物 ・温室効果ガス	副産物の分別、再資源化	写真 4-1-3-14
・温室効果ガス	高負荷運転の抑制	—
	工事規模に合わせた建設機械の設定	—
	建設機械の点検及び整備による性能 維持	写真 4-1-3-3
	低燃費車種の選定、積載の効率化、運 搬計画の合理化による運搬距離の最 適化	写真 4-1-3-15



写真4-1-3-1 排出ガス対策型・低騒音型
機械の採用



写真4-1-3-2 建設機械の使用時における配慮



写真4-1-3-3 建設機械の点検・整備



写真4-1-3-4 工事従事者への講習・指導



写真4-1-3-5 仮囲いの設置状況



写真4-1-3-6 工事現場の清掃



写真4-1-3-7 粉じん飛散防止剤散布



写真4-1-3-8 (1) タイヤの洗浄



写真4-1-3-8 (2) タイヤ洗浄
(湿式スパッツ)



写真4-1-3-9 濁水処理設備の設置
状況



写真4-1-3-10 河川内工事の適切な排水処理



写真4-1-3-11 仮締切工の実施 (1)



写真4-1-3-11 仮締切工の実施 (2)



写真4-1-3-12 工事排水の監視、
機械の点検



写真4-1-3-13 掘削土砂の適切な管理



写真4-1-3-14 副産物の分別、
再資源化



写真4-1-3-15 低燃費車種の選定



写真4-1-3-16 防音シート等の設置



写真4-1-3-17 工事現場の清掃、散水の
実施

4-1-4 高架橋（利根川公園交差部）

環境保全措置の実施状況を、表 4-1-4-1、写真 4-1-4-1～写真 4-1-4-13 に示す。なお、本工事は主に高架橋工事を実施していたため、当該工事に関わる内容となる。

表 4-1-4-1(1) 令和 3 年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	令和 3 年度に実施した環境保全措置	備考
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) 	排出ガス対策型建設機械の採用	写真 4-1-4-1
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質、 粉じん等) ・ 騒音 ・ 振動 ・ 温室効果ガス 	工事規模に合わせた建設機械の設定	—
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・ 騒音 ・ 振動 	建設機械の使用時における配慮	写真 4-1-4-2
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・ 騒音 ・ 振動 ・ 温室効果ガス 	建設機械の点検及び整備による性能維持	写真 4-1-4-3
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・ 騒音 ・ 振動 ・ 温室効果ガス 	工事従事者への講習・指導	写真 4-1-4-4
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質、 粉じん等) ・ 騒音 ・ 振動 ・ 景観 ・ 人と自然との触れ合いの活動の 場 	工事の平準化	—

表 4-1-4-1 (2) 令和3年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	令和3年度に実施した環境保全措置	備考
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・ 騒音 ・ 振動 ・ 温室効果ガス 	資材及び機械の運搬に用いる車両の点検及び整備による性能維持	写真 4-1-4-5
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・ 騒音 ・ 振動 	資材及び機械の運搬に用いる車両の運行計画の配慮	—
	環境負荷低減を意識した運転の徹底	—
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大気質 (粉じん等) 	工事現場の清掃及び散水	写真 4-1-4-6
	仮囲いの設置	写真 4-1-4-7
	荷台への防じんシート敷設及び散水	写真 4-1-4-8
	資材及び機械の運搬に用いる車両の出入り口、周辺道路の清掃及び散水、タイヤの洗浄	写真 4-1-4-9
	粉じん防止剤の散布	写真 4-1-4-10
<ul style="list-style-type: none"> ・ 騒音 	低騒音型建設機械の採用	写真 4-1-4-1
<ul style="list-style-type: none"> ・ 騒音 	仮囲い・防音シート等の設置による遮音対策	写真 4-1-4-7
<ul style="list-style-type: none"> ・ 水質 (水の濁り、汚れ) 	工事排水の適切な処理	写真 4-1-4-11
	工事排水の監視	—
	処理装置の点検・整備による性能維持	—
<ul style="list-style-type: none"> ・ 日照障害 	鉄道施設 (嵩上式) の構造物の形式・配置等の工夫	—

表 4-1-4-1 (3) 令和 3 年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	令和 3 年度に実施した環境保全措置	備考
・ 電波障害	鉄道施設（嵩上式、駅）の建造物の形式・配置等の工夫	—
・ 文化財	適切な構造及び工法の採用	—
	試掘・確認調査及び発掘調査の実施	—
	遺跡の発見に伴う届出	—
・ 景観	建造物の形状の配慮	—
・ 人と自然との触れ合いの活動の場	鉄道施設の形状等の工夫による近傍の風景への調和の配慮	—
・ 廃棄物等	建設発生土の再利用	—
	建設汚泥の脱水処理	—
	発生土を有効利用する事業者への土壌汚染に関する情報提供	—
・ 廃棄物等 ・ 温室効果ガス	副産物の分別、再資源化	写真 4-1-4-12
・ 温室効果ガス	低炭素型建設機械の採用	—
	高負荷運転の抑制	—
	低燃費車種の選定、積載の効率化、運搬計画の合理化による運搬距離の最適化	写真 4-1-4-13

	
<p>写真4-1-4-1 排出ガス対策型・低騒音型 建設機械の採用</p>	<p>写真4-1-4-2 建設機械の使用時における配慮</p>
	
<p>写真4-1-4-3 建設機械の点検・整備</p>	<p>写真4-1-4-4 工事従事者への講習・指導</p>
	
<p>写真4-1-4-5 車両点検・整備状況</p>	<p>写真4-1-4-6 工事現場の清掃</p>



写真4-1-4-7 仮囲いの設置状況



写真4-1-4-8 防じんシート設置



写真4-1-4-9 (1) タイヤ洗浄



写真4-1-4-9 (2) タイヤ洗浄(湿式スパッツ)



写真4-1-4-10 粉じん飛散防止剤散布



写真4-1-4-11 濁水処理設備状況



写真4-1-4-12 建設副産物の分別・再資源化



写真4-1-4-13 低燃費車種の選定

4-1-5 第三南巨摩トンネルほか

環境保全措置の実施状況を表4-1-5-1、写真4-1-5-1～写真4-1-5-21に示す。なお、本工区の令和3年度の工事については、主に工事施工ヤードの整備を実施しているため、当該工事に関わる報告になる。

表4-1-5-1(1) 令和3年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	令和3年度に実施した環境保全措置	備考
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・ 騒音 	排出ガス対策型、低騒音型建設機械の採用	写真 4-1-5-1
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質、 粉じん等) ・ 騒音 ・ 振動 ・ 温室効果ガス 	工事規模に合わせた建設機械の設定	—
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・ 騒音 ・ 振動 	建設機械の使用時における配慮	写真 4-1-5-2
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・ 騒音 ・ 振動 ・ 温室効果ガス 	建設機械の点検及び整備による性能維持	写真 4-1-5-3
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・ 騒音 ・ 振動 ・ 動物 ・ 植物 ・ 生態系 ・ 温室効果ガス 	工事従事者への講習・指導	写真 4-1-5-4
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質、 粉じん等) ・ 騒音 ・ 振動 ・ 景観 	工事の平準化	—

表4-1-5-1(2) 令和3年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	令和3年度に実施した環境保全措置	備考
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス 	資材及び機械の運搬に用いる車両の点検及び整備による性能維持	—
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・騒音 ・振動 	資材及び機械の運搬に用いる車両の運行計画の配慮	—
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・騒音 ・振動 	環境負荷低減を意識した運転の徹底	—
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (粉じん等) 	仮囲いの設置	写真 4-1-5-5
	工事現場の清掃及び散水	写真 4-1-5-6
	荷台への防じんシート敷設及び散水	写真 4-1-5-7
	資材及び機械の運搬に用いる車両の出入り口、周辺道路の清掃及び散水、タイヤの洗浄	写真 4-1-5-8
<ul style="list-style-type: none"> ・騒音 	仮囲い・防音シート等の設置による遮音対策	写真 4-1-5-5 写真 4-1-5-9
<ul style="list-style-type: none"> ・水質 (水の濁り、水の汚れ) ・水資源 ・土壌汚染 	工事排水の適切な処理	写真 4-1-5-10
<ul style="list-style-type: none"> ・水質 (水の濁り、水の汚れ) 	仮締切工の実施	—
<ul style="list-style-type: none"> ・水質 (水の濁り、水の汚れ) ・水資源 	工事排水の監視	写真 4-1-11
	処理装置の点検・整備による性能維持	写真 4-1-12
<ul style="list-style-type: none"> ・水質 (水の濁り、水の汚れ) ・水資源 ・動物 ・植物 ・生態系 	放流時の放流箇所及び水温の調整	—

表4-1-5-1(3) 令和3年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	令和3年度に実施した環境保全措置	備考
<ul style="list-style-type: none"> ・地下水 (地下水の水質、地下水の水位) ・水資源 ・土壌汚染 	薬液注入工法における指針の順守	—
<ul style="list-style-type: none"> ・地下水 (地下水の水質、地下水の水位) ・水資源 ・地盤沈下 	適切な構造及び工法の採用	—
<ul style="list-style-type: none"> ・水底の底質 	河川内工事における工事排水の適切な処理	—
<ul style="list-style-type: none"> ・水資源 	地下水等の監視	—
	応急措置の体制整備	—
	代替水源の確保	—
<ul style="list-style-type: none"> ・土壌汚染 	有害物質の有無の確認と基準不適合土壌の適切な処理	—
	土砂ピットにおける掘削土砂の適切な管理	写真 4-1-5-13
	発生土に含まれる重金属等の定期的な調査	—
<ul style="list-style-type: none"> ・動物 ・生態系 	小動物が脱出可能な側溝の設置	写真 4-1-5-14
	資材運搬等の適正化	—
	防音シート、低騒音・低振動型の建設機械の採用	写真 4-1-5-1 写真 4-1-5-15
	照明の漏れ出しの抑制	写真 4-1-5-16
<ul style="list-style-type: none"> ・植物 ・生態系 	外来種の拡大抑制	写真 4-1-5-8
<ul style="list-style-type: none"> ・動物 ・植物 ・生態系 	汚濁処理施設及び仮設沈砂池の設置	写真 4-1-5-17
	工事施工ヤード等の林縁保護植栽等による重要な種の生息環境の確保	—
<ul style="list-style-type: none"> ・人と自然との触れ合い活動の場 	鉄道施設の形状等の工夫による近傍の風景への調和の配慮	写真 4-1-5-18
<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物等 	建設発生土の再利用	—
	建設汚泥の脱水処理	写真 4-1-5-19
<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物 ・温室効果ガス 	副産物の分別、再資源化	写真 4-1-5-20

表4-1-5-1(4) 令和3年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	令和3年度に実施した環境保全措置	備考
・温室効果ガス	低炭素型建設機械の採用	—
	高負荷運転の抑制	—
	低燃費車種の選定、積載の効率化、運搬計画の合理化による運搬距離の最適化	写真 4-1-5-21



写真4-1-5-1 排出ガス対策型・低騒音型建設機械の採用



写真4-1-5-2 建設機械の使用時における配慮



写真4-1-5-3 建設機械の点検及び整備による性能維持



写真4-1-5-4(1) 工事従事者への講習・指導



写真4-1-5-4(2) 工事従事者への講習・指導



写真4-1-5-5 仮囲いの設置



写真4-1-5-6 工事現場の清掃及び散水



写真4-1-5-7 荷台への防じんシート敷設



写真4-1-5-8 資材及び機械の運搬に用いる車両の出入口、周辺道路の清掃及び散水、タイヤの洗浄



写真4-1-5-9 仮囲い・防音シートなどの設置による遮音対策



写真4-1-5-10 工事排水の適切な処理



写真4-1-5-11 工事排水の監視



写真4-1-5-12 処理装置の点検・整備による性能維持



写真4-1-5-13 掘削土砂の適切な管理



写真4-1-5-14 小動物が脱出可能な側溝の設置



写真4-1-5-15 防音シート、低騒音機械の採用

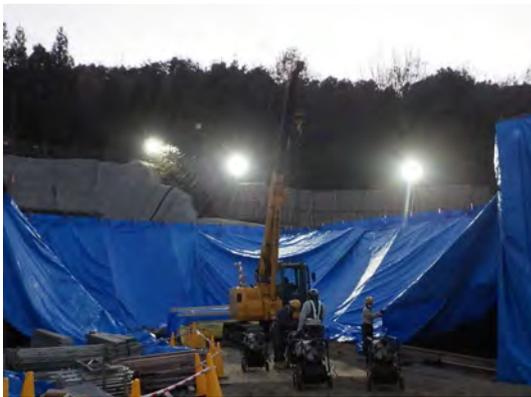


写真4-1-5-16 照明の漏れ出しの抑制



写真4-1-5-17 汚濁処理施設の設置



写真4-1-5-18 仮設芝生広場の設置



写真4-1-5-19 建設汚泥の脱水処理



写真4-1-5-20(1) 副産物の分別、資源化



写真4-1-5-20(2) 副産物の分別、資源化



写真4-1-5-21 低燃費車種の選定、積載の効率化、運搬計画の合理化による運搬距離の最適化

4-1-6 第四南巨摩トンネル（東工区）

環境保全措置の実施状況を表 4-1-6-1、写真 4-1-6-1～写真 4-1-6-19 に示す。なお、本工事は主にトンネル工事、高下保守基地・変電所盛土造成工事を実施していたため、当該工事に関わる報告になる。

表 4-1-6-1(1) 令和 3 年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	令和 3 年度に実施した環境保全措置	備考
・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質)	排出ガス対策型建設機械の採用	写真 4-1-6-1
・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質、 粉じん等) ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス	工事規模に合わせた建設機械の設定	—
・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質、 粉じん等) ・騒音 ・振動 ・人と自然との触れ合いの活動の 場	工事の平準化	—
・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・騒音 ・振動	建設機械の使用時における配慮	—
・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス	建設機械の点検及び整備による性能維持	写真 4-1-6-2
・騒音	低騒音型建設機械の採用	写真 4-1-6-3
・騒音	仮囲い・防音シート等の設置による遮音対策	写真 4-1-6-4 写真 4-1-6-5

表 4-1-6-1(2) 令和3年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	令和3年度に実施した環境保全措置	備考
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス ・動物 ・植物 ・生態系 	<p>工事従事者への講習・指導</p>	<p>写真 4-1-6-6</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (粉じん等) 	<p>工事現場の清掃及び散水</p>	<p>写真 4-1-6-7 写真 4-1-6-8</p>
	<p>仮囲いの設置</p>	<p>写真 4-1-6-4</p>
	<p>荷台への防じん敷設及び散水</p>	<p>写真 4-1-6-9</p>
	<p>資材及び機械の運搬に用いる車両の出入り口、周辺道路の清掃及び散水、タイヤの洗浄</p>	<p>写真 4-1-6-7 写真 4-1-6-10</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス 	<p>資材及び機械の運搬に用いる車両の点検及び整備による性能維持</p>	<p>写真 4-1-6-11</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・騒音 ・振動 ・景観 ・人と自然との触れ合いの活動の場 	<p>資材及び機械の運搬に用いる車両の運行計画の配慮</p>	<p>—</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・騒音 ・振動 	<p>環境負荷低減を意識した運転の徹底</p>	<p>—</p>

表 4-1-6-1 (3) 令和3年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	令和3年度に実施した環境保全措置	備考
<ul style="list-style-type: none"> ・ 水質（水の濁り、水の汚れ） ・ 水資源 ・ 土壌汚染 	工事排水の適切な処理	写真 4-1-6-12
<ul style="list-style-type: none"> ・ 水質（水の濁り、水の汚れ） ・ 水資源 	工事排水の監視	—
	処理装置又は排水設備の点検・整備による性能維持	—
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地下水の水質及び水位 ・ 水資源 	適切な構造及び工法の採用	—
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地下水の水質及び水位 ・ 水資源 ・ 土壌汚染 	薬液注入工法における指針の順守	—
<ul style="list-style-type: none"> ・ 水資源 	地下水等の監視	—
	応急措置の体制	—
	代替水源の確保	—
<ul style="list-style-type: none"> ・ 土壌汚染 	土砂ピットにおける掘削土砂の適切な管理	写真 4-1-6-13
	保守基地・変電所造成における掘削土砂の適切な管理	—
	対策土を含む発生土の適切な運搬	写真 4-1-6-9
	発生土に含まれる自然由来の重金属等の定期的な調査	—
<ul style="list-style-type: none"> ・ 動物 ・ 生態系 	小動物が脱出可能な側溝の設置	写真 4-1-6-14
	防音シート、低騒音型の建設機械の採用	写真 4-1-6-1 写真 4-1-6-5
	資材運搬等の適正化	—
	照明の漏れ出しの抑制	—
<ul style="list-style-type: none"> ・ 動物 ・ 植物 ・ 生態系 	汚染処理施設及び仮設沈砂池の設置	写真 4-1-6-15
	工事施工ヤード等の林縁保護植栽等による重要な種の生息環境の確保	—

表 4-1-6-1(4) 令和3年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	令和3年度に実施した環境保全措置	備考
<ul style="list-style-type: none"> ・ 植物 ・ 生態系 	外来種の拡大抑制	写真 4-1-6-16
<ul style="list-style-type: none"> ・ 廃棄物等 	建設発生土の再利用	—
	建設汚泥の脱水処理	—
<ul style="list-style-type: none"> ・ 廃棄物等 ・ 温室効果ガス 	副産物の分別、再資源化	写真 4-1-6-17
<ul style="list-style-type: none"> ・ 温室効果ガス 	低炭素型建設機械の採用	写真 4-1-6-18
	高負荷運転の抑制	—
	低燃費車種の選定、積載の効率化、運搬計画の合理化による運搬距離の最適化	写真 4-1-6-19

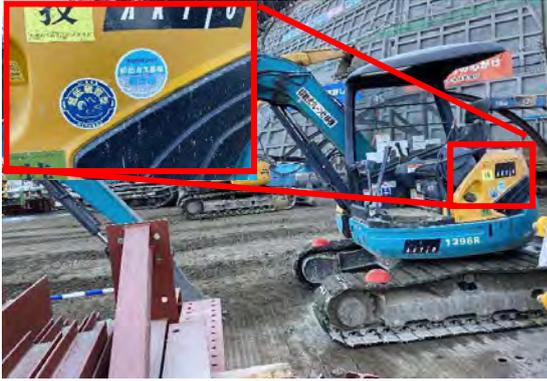


写真4-1-6-1 排出ガス対策型・低騒音型建設機械の採用



写真4-1-6-2 建設機械の点検・整備



写真4-1-6-3 低騒音型建設機械の採用



写真4-1-6-4 仮囲い等の設置



写真4-1-6-5 仮囲い・防音シート等の設置による遮音対策



写真4-1-6-6 工事従事者への講習・指導



写真4-1-6-7 工事現場の清掃



写真4-1-6-8 敷鉄板設置による粉じん抑制状況



写真4-1-6-9 荷台への防じんシート敷設、対策土を含む発生土の適切な運搬



写真4-1-6-10 資材及び機械の運搬に用いる車両の出入り口、周辺道路の清掃及び散水、タイヤの洗浄



写真4-1-6-11 車両の点検



写真4-1-6-12 工事排水の適切な処理



写真 4-1-6-13 掘削土砂の適切な管理



写真 4-1-6-14 小動物が脱出可能な側溝の設置



写真 4-1-6-15 仮設沈砂池の設置



写真 4-1-6-16 外来種の拡大抑制



写真 4-1-6-17 副産物の分別、再資源化



写真 4-1-6-18 低炭素型建設機械の採用



写真 4-1-6-19 低燃費車種の選定

4-1-7 第四南巨摩トンネル（西工区）

環境保全措置の実施状況を、表 4-1-7-1、写真 4-1-7-1～写真 4-1-7-16 に示す。なお、本工事は主にトンネル工事を実施していたため、当該工事に関わる内容となる。

表 4-1-7-1(1) 令和3年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	令和3年度に実施した環境保全措置	備考
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大気質 （二酸化窒素、浮遊粒子状物質） 	排出ガス対策型建設機械の採用	写真 4-1-7-1
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大気質 （二酸化窒素、浮遊粒子状物質、 粉じん等） ・ 騒音 ・ 振動 ・ 温室効果ガス 	工事規模に合わせた建設機械の設定	—
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大気質 （二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・ 騒音 ・ 振動 	建設機械の使用時における配慮	—
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大気質 （二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・ 騒音 ・ 振動 ・ 温室効果ガス 	建設機械の点検及び整備による性能維持	写真 4-1-7-2
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大気質 （二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・ 騒音 ・ 振動 ・ 動物 ・ 植物 ・ 生態系 ・ 温室効果ガス 	工事従事者への講習・指導	写真 4-1-7-3

表 4-1-7-1 (2) 令和 3 年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	令和 3 年度に実施した環境保全措置	備考
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質、 粉じん等) ・ 騒音 ・ 振動 ・ 景観 ・ 人と自然との触れ合いの活動の 場 	工事の平準化	—
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・ 騒音 ・ 振動 ・ 温室効果ガス 	資材及び機械の運搬に用いる車両の点検 及び整備による性能維持	写真 4-1-7-4
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・ 騒音 ・ 振動 ・ 景観 ・ 人と自然との触れ合いの活動の 場 	資材及び機械の運搬に用いる車両の運行 計画の配慮	—
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・ 騒音 ・ 振動 	環境負荷低減を意識した運転の徹底	—
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大気質 (粉じん等) 	仮囲いの設置	写真 4-1-7-5
	工事現場の清掃及び散水	写真 4-1-7-6
	荷台への防じんシート敷設及び散水	写真 4-1-7-7
	資材及び機械の運搬に用いる車両の出入 り口、周辺道路の清掃及び散水、タイヤ の洗浄	写真 4-1-7-6 写真 4-1-7-8 写真 4-1-7-9

表 4-1-7-1 (3) 令和 3 年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	令和 3 年度に実施した環境保全措置	備考
・騒音	低騒音型建設機械の採用	写真 4-1-7-1
・騒音	仮囲い・防音シート等の設置による遮音対策	写真 4-1-7-5
・水質（水の濁り、水の汚れ） ・水資源 ・土壌汚染	工事排水の適切な処理	写真 4-1-7-10
・水質（水の濁り、水の汚れ） ・水資源	工事排水の監視	写真 4-1-7-11
	処理装置の点検・整備による性能維持	写真 4-1-7-11
・水質（水の濁り、水の汚れ） ・水資源 ・動物 ・植物 ・生態系	放流時の放流箇所及び水温の調整	—
・地下水の水質及び水位 ・水資源 ・土壌汚染	薬液注入工法における指針の順守	—
・地下水の水質及び水位 ・水資源 ・地盤沈下	適切な構造及び工法の採用	—
・水資源	地下水等の監視	—
	応急措置の体制整備	—
	代替水源の確保	—

表 4-1-7-1(4) 令和3年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	令和3年度に実施した環境保全措置	備考
・ 土壌汚染	有害物質の有無の確認と基準不適合土壌の適切な処理	写真 4-1-7-7
	土砂ピットにおける掘削土砂の適切な管理	写真 4-1-7-12
	発生土に含まれる重金属等の定期的な調査	—
・ 土壌汚染 ・ 廃棄物等	発生土を有効利用する事業者への土壌汚染に関する情報提供	—
・ 動物	侵入防止柵の設置	写真 4-1-7-5
・ 動物 ・ 生態系	小動物が脱出可能な側溝の設置	写真 4-1-7-13
	資材運搬等の適正化	—
	防音シート、低騒音型の建設機械の採用	写真 4-1-7-1 写真 4-1-7-5
	照明の漏れ出しの抑制	写真 4-1-7-14
	コンディショニングの実施	—
・ 動物 ・ 植物 ・ 生態系	汚濁処理施設及び仮設沈砂池の設置	写真 4-1-7-10
	工事施工ヤード等の林縁保護植栽等による重要な種の生息環境の確保	—
・ 景観 ・ 人と自然との触れ合いの活動の場	発生集中交通量の削減	—
・ 人と自然との触れ合いの活動の場	仮設物の色合いへの配慮	写真 4-1-7-15

表 4-1-7-1 (5) 令和 3 年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	令和 3 年度に実施した環境保全措置	備考
・ 廃棄物等	建設発生土の再利用	—
	建設汚泥の脱水処理	—
・ 廃棄物等 ・ 温室効果ガス	副産物の分別、再資源化	—
・ 温室効果ガス	低炭素型建設機械の採用	—
	高負荷運転の抑制	—
	低燃費車種の選定、積載の効率化、運搬計画の合理化による運搬距離の最適化	写真 4-1-7-16



写真4-1-7-1 排出ガス対策型・低騒音型
建設機械の採用



写真4-1-7-2 建設機械の点検・整備



写真4-1-7-3 工事従事者への講習・指導



写真4-1-7-4 車両の点検・整備



写真4-1-7-5 (1) 仮囲いの設置状況



写真4-1-7-5(2) 仮囲いの設置状況



写真4-1-7-6 工事現場周辺の清掃



写真 4-1-7-7 運搬時の防じんシート
設置状況



写真4-1-7-8 タイヤ洗浄



写真4-1-7-9 道路への散水



写真4-1-7-10 濁水処理設備の設置状況



写真4-1-7-11 工事排水の監視
(濁水処理設備の監視・点検)



写真4-1-7-12 土砂ピットにおける掘削
土砂の管理（底盤及び周囲
のコンクリート打設）



写真4-1-7-13(1) 小動物が脱出可能な側溝



写真4-1-7-13(2) 小動物が脱出可能な側溝



写真4-1-7-14(1) LED照明による照明の
漏れ出しの抑制



写真4-1-7-14 (2) LED照明による照明
の漏れ出しの抑制



写真4-1-7-15 仮設物の色合いへの配慮
(ベルトコンベアー)



写真4-1-7-16 低燃費車種の選定

4-1-8 南アルプストンネル（山梨工区）

環境保全措置の実施状況を、表 4-1-8-1、写真 4-1-8-1～写真 4-1-8-21 に示す。なお、本工事は主にトンネル工事を実施していたため、当該工事に関わる内容となる。

表 4-1-8-1(1) 令和3年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	令和3年度に実施した環境保全措置	備考
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) 	排出ガス対策型建設機械の採用	写真 4-1-8-1
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質、 粉じん等) ・ 騒音 ・ 振動 ・ 温室効果ガス 	工事規模に合わせた建設機械の設定	—
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・ 騒音 ・ 振動 	建設機械の使用時における配慮	—
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・ 騒音 ・ 振動 ・ 温室効果ガス 	建設機械の点検及び整備による性能維持	写真 4-1-8-2
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・ 騒音 ・ 振動 ・ 動物 ・ 植物 ・ 生態系 ・ 温室効果ガス 	工事従事者への講習・指導	写真 4-1-8-3

表 4-1-8-1 (2) 令和 3 年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	令和 3 年度に実施した環境保全措置	備考
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等) ・騒音 ・振動 ・景観 ・人と自然との触れ合いの活動の場 	工事の平準化	—
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス 	資材及び機械の運搬に用いる車両の点検及び整備による性能維持	—
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・騒音 ・振動 ・景観 ・人と自然との触れ合いの活動の場 	資材及び機械の運搬に用いる車両の運行計画の配慮	—
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・騒音 ・振動 	環境負荷低減を意識した運転の徹底	—
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (粉じん等) 	工事現場の清掃及び散水	写真 4-1-8-4
	仮囲いの設置	写真 4-1-8-5 写真 4-1-8-6
	荷台への防じんシート敷設及び散水	写真 4-1-8-7
	資材及び機械の運搬に用いる車両の出入り口、周辺道路の清掃及び散水、タイヤの洗浄	写真 4-1-8-4 写真 4-1-8-8 写真 4-1-8-9

表 4-1-8-1(3) 令和3年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	令和3年度に実施した環境保全措置	備考
・騒音	低騒音型建設機械の採用	写真 4-1-8-1
・騒音	仮囲い・防音シート等の設置による遮音対策	写真 4-1-8-5 写真 4-1-8-6 写真 4-1-8-10 写真 4-1-8-11 写真 4-1-8-15
・水質(水の濁り、水の汚れ) ・水資源 ・土壌汚染	工事排水の適切な処理	写真 4-1-8-12 写真 4-1-8-13
・水質(水の濁り、水の汚れ) ・水資源	工事排水の監視	写真 4-1-8-13
	処理施設の点検・整備による性能維持	写真 4-1-8-13
・水質(水の濁り、水の汚れ) ・水資源 ・動物 ・植物 ・生態系	放流時の放流箇所及び水温の調整	—
・地下水の水質及び水位 ・水資源 ・土壌汚染	薬液注入工法における指針の順守	—
・地下水の水質及び水位 ・水資源 ・地盤沈下	適切な構造及び工法の採用	—
・水資源	地下水等の監視	—
	応急措置の体制整備	—

表 4-1-8-1 (4) 令和 3 年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	令和 3 年度に実施した環境保全措置	備考
・ 土壌汚染	有害物質の有無の確認と基準不適合土壌の適切な処理	写真 4-1-8-7
	土砂ピットにおける掘削土砂の適切な管理	写真 4-1-8-14
	発生土に含まれる重金属等の定期的な調査	—
・ 土壌汚染 ・ 廃棄物等	発生土を有効利用する事業者への土壌汚染に関する情報提供	—
・ 動物 ・ 生態系	侵入防止柵の設置	写真 4-1-8-5 写真 4-1-8-6 写真 4-1-8-15
	小動物が脱出可能な側溝の設置	写真 4-1-8-16
・ 動物 ・ 生態系	資材運搬等の適正化	—
	防音シート、低騒音型の建設機械の採用	写真 4-1-8-1 写真 4-1-8-5 写真 4-1-8-6 写真 4-1-8-10 写真 4-1-8-11
	照明の漏れ出しの抑制	写真 4-1-8-17
	コンディショニングの実施	—
・ 動物 ・ 植物 ・ 生態系	汚濁処理施設及び仮設沈砂池の設置	写真 4-1-8-12
・ 動物 ・ 植物 ・ 生態系	工事施工ヤード等の林縁保護植栽等による重要な種の生息環境の確保	—

表 4-1-8-1 (5) 令和 3 年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	令和 3 年度に実施した環境保全措置	備考
・ 植物	外来種の拡大抑制	写真 4-1-8-8 写真 4-1-8-18
・ 景観 ・ 人と自然との触れ合いの活動 の場	発生集中交通量の削減	—
・ 人と自然との触れ合いの活動 の場	切土のり面等の緑化による植生復元	写真 4-1-8-19
	仮設物の色合いへの配慮	写真 4-1-8-6
・ 廃棄物等	建設発生土の再利用	—
	建設汚泥の脱水処理	写真 4-1-8-20
・ 廃棄物等 ・ 温室効果ガス	副産物の分別、再資源化	—
・ 温室効果ガス	低炭素型建設機械の採用	—
	高負荷運転の抑制	—
	低燃費車種の選定、積載の効率化、運搬計画の合理化による運搬距離の最適化	写真 4-1-8-21



写真 4-1-8-1 排出ガス対策型・低騒音型
建設機械の採用



写真 4-1-8-2 建設機械の点検・整備



写真 4-1-8-3 工事従事者への講習・指導



写真 4-1-8-4 工事現場の清掃
(早川非常口)



写真 4-1-8-5 仮囲いの設置状況
(早川非常口)



写真 4-1-8-6 仮設物の色合いへの配慮
(広河原非常口仮囲い)



写真 4-1-8-7 運搬時の防じんシート
設置状況



写真 4-1-8-8 道路への散水



写真 4-1-8-9 外来種の拡大抑制のための
タイヤ洗浄



写真 4-1-8-10 防音扉の設置状況
(広河原非常口)



写真 4-1-8-11(1)
バッチャープラント建屋設置状況
(早川非常口)



写真 4-1-8-11(2)
バッチャープラント建屋設置状況
(広河原非常口)



写真 4-1-8-12 濁水処理設備の設置状況
(早川非常口)



写真 4-1-8-13 工事排水の監視
(濁水処理設備の監視・点検)



写真 4-1-8-14 土砂ピットにおける
掘削土砂管理
(底盤及び周囲のコンクリート打設)
(早川非常口)



写真 4-1-8-15 侵入防止柵（仮囲い）の
設置状況
(広河原非常口)



写真 4-1-8-16 小動物が脱出可能な側溝
(広河原非常口)



写真4-1-8-17 LED照明による照明の
漏れ出しの抑制
(早川非常口)



写真 4-1-8-18 外来種の拡大抑制のための
タイヤ洗浄
(広河原非常口入口)



写真 4-1-8-19 のり面の緑化
(広河原非常口)



写真 4-1-8-20 建設汚泥の脱水処理
(早川非常口)



写真 4-1-8-21 低燃費車種の選定

4-1-9 発生土置き場・仮置き場

早川町内の塩島地区発生土置き場、西之宮地区発生土仮置き場、奈良田地区発生土仮置き場、塩島地区（河川側）発生土仮置き場、中洲地区発生土仮置き場における環境保全措置の実施状況を、表 4-1-9-1、写真 4-1-9-1～写真 4-1-9-8 に示す。

表 4-1-9-1 (1) 令和 3 年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	令和 3 年度に実施した環境保全措置	備考
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) 	排出ガス対策型建設機械の採用	写真 4-1-9-1
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質、 粉じん等) ・ 騒音 ・ 振動 ・ 温室効果ガス 	工事規模に合わせた建設機械の設定	—
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・ 騒音 ・ 振動 	建設機械の使用時における配慮	—
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・ 騒音 ・ 振動 ・ 温室効果ガス 	建設機械の点検及び整備による性能維持	—
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・ 騒音 ・ 振動 ・ 動物 ・ 植物 ・ 生態系 ・ 温室効果ガス 	工事従事者への講習・指導	写真 4-1-8-3

表 4-1-9-1 (2) 令和 3 年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	令和 3 年度に実施した環境保全措置	備考
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質、 粉じん等) ・ 騒音 ・ 振動 ・ 景観 ・ 人と自然との触れ合いの活動の 場 	工事の平準化	—
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・ 騒音 ・ 振動 ・ 温室効果ガス 	資材及び機械の運搬に用いる車両の点検 及び整備による性能維持	写真 4-1-9-2
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・ 騒音 ・ 振動 ・ 景観 ・ 人と自然との触れ合いの活動の 場 	資材及び機械の運搬に用いる車両の運行 計画の配慮	—
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・ 騒音 ・ 振動 	環境負荷低減を意識した運転の徹底	—
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大気質 (粉じん等) 	工事現場の清掃及び散水	写真 4-1-9-3
	仮囲いの設置	写真 4-1-9-5
	荷台への防じんシート敷設及び散水	—
	資材及び機械の運搬に用いる車両の出入 口、周辺道路の清掃及び散水、タイヤの 洗浄	写真 4-1-9-3 写真 4-1-9-4
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大気質 (粉じん等) ・ 騒音 	仮囲い・防音シート等の設置による遮音 対策	写真 4-1-9-5

表 4-1-9-1 (3) 令和 3 年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	令和 3 年度に実施した環境保全措置	備考
・騒音	低騒音型建設機械の採用	写真 4-1-9-1
・水質（水の濁り）	工事排水の適切な処理	写真 4-1-9-6 写真 4-1-9-7
	工事排水の監視	写真 4-1-9-6 写真 4-1-9-7
	処理装置の点検・整備による性能維持	—
・動物 ・生態系	小動物が脱出可能な側溝の設置	—
・動物 ・生態系	資材運搬等の適正化	—
	防音シート、低騒音・低振動型の建設機械の採用	写真 4-1-9-1 写真 4-1-9-5
・動物 ・植物 ・生態系	汚濁処理施設及び仮設沈砂池の設置	写真 4-1-9-6
・植物	外来種の拡大抑制	写真 4-1-9-4
	工事に伴う改変区域をできる限り小さくする	—
	重要な種の移植・播種	—
・景観 ・人と自然との触れ合いの活動の場	発生集中交通量の削減	—

表 4-1-9-1(4) 令和3年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	令和3年度に実施した環境保全措置	備考
・温室効果ガス	低炭素型建設機械の採用	—
	高負荷運転の抑制	—
	副産物の分別・再資源化	—
	低燃費車種の選定、積載の効率化、運搬計画の合理化による運搬距離の最適化	写真 4-1-9-8



写真 4-1-9-1 排出ガス対策型、低騒音型建設機械の採用



写真 4-1-9-2 車両の点検・整備



写真 4-1-9-3 清掃実施状況
(塩島地区発生土置き場)



写真 4-1-9-4 外来種の拡大抑制のための
タイヤ洗浄プール
(塩島地区(河川側)発生土仮置き場)



写真 4-1-9-5 仮囲いの設置状況
(塩島地区発生土置き場)



写真 4-1-9-6 沈砂池の設置状況
(塩島地区(河川側)発生土仮置き場)



写真 4-1-9-7 工事排水の監視
(塩島地区発生土置き場)



写真 4-1-9-8 低燃費車種の採用

4-1-10 発生土仮置き場（遮水型）

早川町内の雨畑地区発生土仮置き場、塩島地区（南）発生土仮置き場、西之宮地区発生土仮置き場（その2）、塩島地区（下流）発生土仮置き場、中洲地区発生土仮置き場（その2）、湯島地区発生土仮置き場、湯島（南草里）地区発生土仮置き場、湯島（田島）地区発生土仮置き場における環境保全措置の実施状況を、表 4-1-10-1、写真 4-1-10-1～写真 4-1-10-8 に示す。

表 4-1-10-1(1) 令和3年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	令和3年度に実施した環境保全措置	備考
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 （二酸化窒素、浮遊粒子状物質） 	排出ガス対策型建設機械の採用	写真 4-1-10-1
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 （二酸化窒素、浮遊粒子状物質、 粉じん等） ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス 	工事規模に合わせた建設機械の設定	—
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 （二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・騒音 ・振動 	建設機械の使用時における配慮	—
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 （二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス 	建設機械の点検及び整備による性能維持	写真 4-1-10-2
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 （二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・騒音 ・振動 ・動物 ・植物 ・生態系 ・温室効果ガス 	工事従事者への講習・指導	写真 4-1-8-3

表 4-1-10-1 (2) 令和3年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	令和3年度に実施した環境保全措置	備考
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質、 粉じん等) ・騒音 ・振動 	工事の平準化	—
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス 	資材及び機械の運搬に用いる車両の点検及び整備による性能維持	写真 4-1-10-3
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (二酸化窒素、浮遊粒子状物質) ・騒音 ・振動 	環境負荷低減を意識した運転の徹底	—
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質 (粉じん等) 	工事現場の清掃及び散水	写真 4-1-10-4
	荷台への防じんシート敷設及び散水	写真 4-1-10-6
	資材及び機械の運搬に用いる車両の出入口、周辺道路の清掃及び散水、タイヤの洗浄	写真 4-1-10-4 写真 4-1-10-5
<ul style="list-style-type: none"> ・騒音 	低騒音型建設機械の採用	写真 4-1-10-1
<ul style="list-style-type: none"> ・水質 (水の濁り、水の汚れ) ・土壌汚染 	工事排水の適切な処理	—
<ul style="list-style-type: none"> ・水質 (水の濁り、水の汚れ) ・土壌汚染 	仮置き場における掘削土砂の適切な管理	写真 4-1-10-8
<ul style="list-style-type: none"> ・土壌汚染 	区分土の適切な運搬	写真 4-1-10-6
<ul style="list-style-type: none"> ・動物 ・植物 ・生態系 	重要な種の生育・生息地の全体又は一部を回避	—

表 4-1-10-1 (3) 令和 3 年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	令和 3 年度に実施した環境保全措置	備考
・水質（水の濁り、水の汚れ）	工事排水の監視	写真 4-1-10-7
	処理装置の点検・整備による性能維持	—
・水質（水の濁り、水の汚れ） ・水資源 ・動物 ・植物 ・生態系	放流時の放流箇所及び水温の調整	—
・動物 ・植物 ・生態系	汚濁処理施設及び仮設沈砂池の設置	—
・温室効果ガス	低炭素型建設機械の採用	—
	高負荷運転の抑制	—
	低燃費車種の選定、積載の効率化、運搬計画の合理化による運搬距離の最適化	—



写真 4-1-10-1 排出ガス対策型、低騒音型
建設機械の採用



写真 4-1-10-2 建設機械の点検・整備



写真 4-1-10-3 車両の点検・整備



写真 4-1-10-4 清掃実施状況
(塩島地区(南)発生土仮置き場)



写真 4-1-10-5 外来種の拡大抑制のための
タイヤ洗浄プール
(塩島(下流)発生土仮置き場)



写真 4-1-10-6 運搬時の防じんシート等
設置状況



写真 4-1-10-7 浸潤水用水槽の設置状況
(塩島 (下流) 発生土仮置き場)



写真 4-1-10-8 遮水シートの設置状況
(雨畑発生土仮置き場)

4-2 営巣環境の整備

生息環境の一部が保全されない可能性がある種を対象に、これまでに専門家に現地確認を頂いた上で、表 4-2-1 の通り人工巣を設置した。設置した人工巣においては状況を確認し必要に応じてメンテナンスを実施している。なお、オオタカ（笛吹市地区ペア）の人工巣 2 について、人工巣を設置した木が枯れていることを確認したため、平成 30 年 12 月に人工巣を撤去し、非営巣期にあたる令和元年 11 月に、人工巣を新たに設置した。令和 3 年度における人工巣の確認及び設置状況を写真 4-2-1～写真 4-2-4 に示す。

令和元年度に再設置したオオタカ（笛吹市地区ペア）の人工巣 2 において、オオタカの営巣を確認した。

表 4-2-1 人工巣の設置状況

対象種	人工巣設置箇所	設置時期
クマタカ (早川町新倉（青崖）地区ペア)	2 箇所	平成 27 年 3 月 8 日
オオタカ (笛吹市地区ペア)	2 箇所	平成 27 年 1 月 17 日 令和元年 11 月 7 日

	
写真 4-2-1(1)人工巣 1 の状況（近景） クマタカ（早川町新倉（青崖）地区ペア） （令和 3 年 10 月 26 日）	写真 4-2-1(2)人工巣 1 の状況（遠景） クマタカ（早川町新倉（青崖）地区ペア） （令和 3 年 10 月 26 日）
	
写真 4-2-2(1)人工巣 2 の状況（近景） クマタカ（早川町新倉（青崖）地区ペア） （令和 3 年 10 月 26 日）	写真 4-2-2(2)人工巣 2 の状況（遠景） クマタカ（早川町新倉（青崖）地区ペア） （令和 3 年 10 月 26 日）



写真 4-2-3(1)人工巣1の状況(近景)
オオタカ(笛吹市地区ペア)
(令和3年5月7日)



写真 4-2-3(2)人工巣1の状況(遠景)
オオタカ(笛吹市地区ペア)
(令和3年5月7日)



写真 4-2-4(1)人工巣2の状況(近景)
オオタカ(笛吹市地区ペア)
(令和3年7月14日)



写真 4-2-4(2)人工巣2の状況(遠景)
オオタカ(笛吹市地区ペア)
(令和3年7月14日)

4-3 重要な種の移植

生育する箇所を回避することができなかった重要な植物を対象に、令和3年度において表4-3-1の通り、重要な種の移植を実施した。移植時の状況を写真4-3-1、写真4-3-2に示す。

表4-3-1 令和3年度に移植を実施した植物

種名	科名	移植前の生育地	移植の実施箇所	移植の実施時期
イヌハギ	マメ科	南アルプス市浅原	南アルプス市浅原	令和3年5月20日



写真 4-3-1 移植個体の状況
(南アルプス市浅原：イヌハギ)



写真 4-3-2 移植作業の状況
(南アルプス市浅原：イヌハギ)

5 その他特に実施した調査

5-1 希少猛禽類の継続調査

事後調査の対象とした鳥類（希少猛禽類）について、工事着手までの間の生息状況を把握するため、継続調査を実施した。既往の調査で個体が確認された笛吹市地区や早川町地区における計画路線（地上部）の計画地付近の対象ペアについて、調査を実施した。なお、令和3年度に完了した繁殖期の調査結果を記載した。

5-1-1 調査項目

オオタカ（笛吹市地区ペア）、イヌワシ（早川町地区ペア）の生息状況とした。

5-1-2 調査方法

調査方法を表 5-1-2-1 に示す。

表 5-1-2-1 希少猛禽類の調査方法

調査項目		調査方法
希少猛禽類	定点観察法	事後調査の対象とした猛禽類のペアについて、工事着手前の生息状況を把握することを目的として、設定した定点において8～10倍程度の双眼鏡及び20～60倍程度の望遠鏡を用いて、飛翔行動等を確認した。
	営巣地調査	古巣及び営巣木の確認を目的として、生息の可能性が高い林内を探索した。巣を確認した場合は、営巣木の位置、営巣木の状況、巣の状況、周辺の地形や植生等を記録した。
	繁殖確認調査	繁殖巣が特定された場合には、抱卵行動、育雛行動、雛の個体数及び成長、巣立ちの時期について調査した。巣の見える位置から8～10倍程度の双眼鏡及び20～60倍程度の望遠鏡を用いて、巣周辺を観察した。

5-1-3 調査地点

調査地点は、事後調査の対象とした猛禽類のペアの行動が確認できるように工事施工ヤードなど事業地周辺に設定した。なお、設定にあたっては専門家から意見を聴取した。

5-1-4 調査期間

調査期間を表 5-1-4-1 に示す。

表 5-1-4-1 希少猛禽類の調査期間

調査項目	調査手法	調査実施日	
希少猛禽類	定点観察法 営巣地調査 繁殖確認調査	繁殖期	令和2年12月21日～令和2年12月23日 令和3年1月25日～令和3年1月27日 令和3年2月22日～令和3年2月24日 令和3年2月25日～令和3年2月26日 令和3年3月17日～令和3年3月19日 令和3年3月22日～令和3年3月24日 令和3年4月21日～令和3年4月23日 令和3年4月26日～令和3年4月28日 令和3年5月7日、8日、23日 令和3年5月24日～令和3年5月26日 令和3年5月31日 令和3年6月10日、21日 令和3年6月23日～令和3年6月25日 令和3年7月1日、13日 令和3年7月14日～令和3年7月16日 令和3年7月26日～令和3年7月28日 令和3年8月17日～令和3年8月19日

5-1-5 調査結果

希少猛禽類の継続調査における確認状況を表 5-1-5-1 に示す。なお、当該ペアについては事後調査を実施するまでの間、調査を継続的に行う予定である。

表 5-1-5-1 希少猛禽類の確認状況

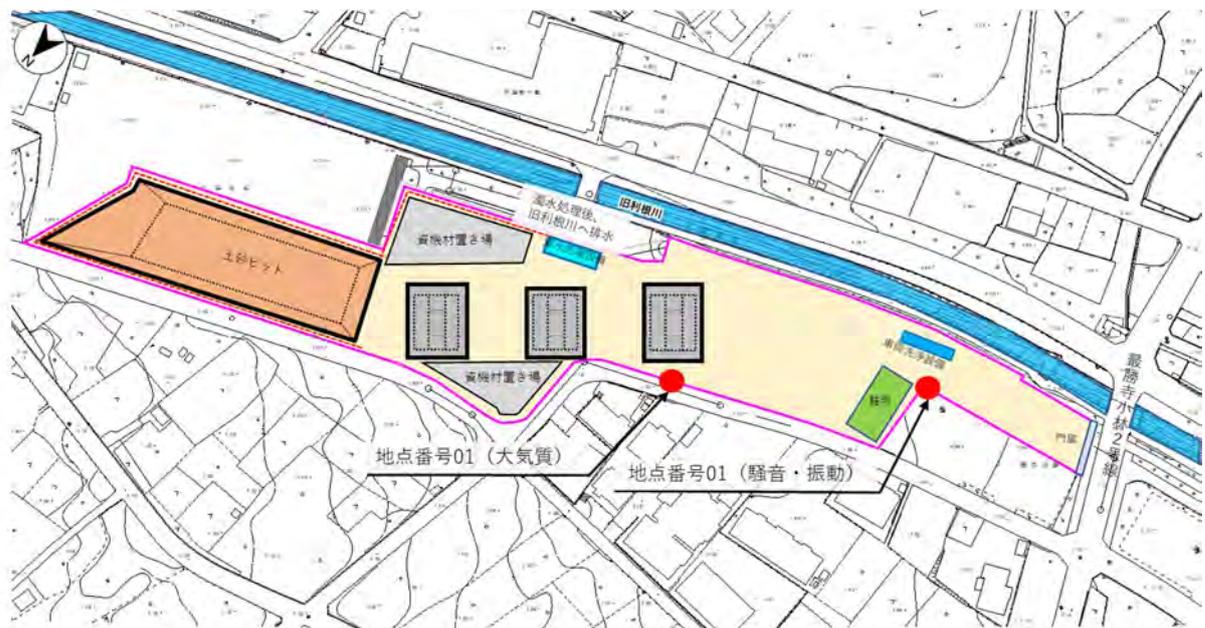
ペア名	確認状況
オオタカ (笛吹市地区ペア)	現地調査により飛翔を確認し、ディスプレイや他個体への排斥行動等を確認した。営巣地については、令和元年に再設置した人工巣を利用していた。その後の調査にて巣を確認したところ、幼鳥を確認したほか、営巣林内での飛翔や鳴き声を確認したため、繁殖に成功したことを確認した。
イヌワシ (早川町地区ペア)	現地調査により飛翔を確認し、ディスプレイや交尾、巣材運び等を確認した。営巣地については、これまで過去に確認されている巣を利用していた。しかし、その後の調査では巣への出入りは確認されず、幼鳥の飛翔等も確認されなかったため、繁殖に失敗したと考えられる。

5-2 その他調査

5-2-1 大気質・騒音・振動

5-2-1-1 山梨県内高架橋ほか新設工事（利根川公園交差部）

モニタリングについては地上区間全体の工事が最盛期となる時期に計画しているが、モニタリングとは別に、その他調査として建設機械の稼働に係る大気質（二酸化窒素及び浮遊粒子状物質、粉じん等）、騒音、振動に係る調査を本工事の最盛期となる令和2年度～令和3年度に実施した。調査地点を図5-2-1-1-1、調査期間を表5-2-1-1-1、調査結果を表5-2-1-1-2に示す。



(本図は自社の測量成果物を用いている)

図 5-2-1-1-1 調査地点図

表 5-2-1-1-1(1) 調査期間

調査項目	季節	調査期間	調査期間中の 主な工事内容
建設機械の稼働に係る大気質 (二酸化窒素及び浮遊粒子状物質)	秋季	令和2年11月19日～25日	仮土留め工
	冬季	令和3年2月8日～14日	場所打ち杭工 下部工
	春季	令和3年4月6日～4月12日	下部工 掘削工
	夏季	令和3年6月2日～6月8日	下部工 掘削工
建設機械の稼働に係る大気質 (粉じん等)	秋季	令和2年10月31日～11月30日	仮土留め工
	冬季	令和3年1月30日～3月1日	場所打ち杭工 下部工
	春季	令和3年4月5日～4月29日 令和3年5月6日～5月13日 ^注	下部工 掘削工
	夏季	令和3年6月1日～7月1日	下部工 掘削工

注：休工期間を考慮し、令和3年4月29日午後～令和3年5月6日午前の期間は粉じん等採取口に蓋をすることで計測から除いた。

表 5-2-1-1-1(2) 調査期間

調査項目	調査期間	調査期間中の 主な工事内容	調査時間帯	
建設機械の稼働に係る騒音	令和3年2月26日	場所打ち杭工 下部工	昼作業	7:00～19:00
建設機械の稼働に係る振動	令和3年2月26日	場所打ち杭工 下部工	昼作業	7:00～19:00

表 5-2-1-1-2(1) 調査結果（二酸化窒素）

地点番号	有効測定日数	測定時間	期間 平均値	1時間値の 最高値	日平均値の 最高値	日平均値が 0.06ppmを超えた 日数とその割合		日平均値が0.04ppm 以上0.06ppm以下の 日数とその割合		基準 ^注
	日	時間	ppm	ppm	ppm	日	%	日	%	
01	28	672	0.004	0.018	0.007	0	0	0	0	日平均値の 年間98%値が 0.06ppm以下

注：環境基準の評価方法（長期的評価）を記載した。

表 5-2-1-1-2(2) 調査結果（浮遊粒子状物質）

地点番号	有効測定日数	測定時間	期間平均値	1時間値の最高値	日平均値の最高値	1時間値が0.20mg/m ³ を超えた時間数とその割合		日平均値が0.10mg/m ³ を超えた日数とその割合		基準 ^注
	日	時間	mg/m ³	mg/m ³	mg/m ³	時間	%	日	%	
01	28	672	0.012	0.036	0.024	0	0	0	0	日平均値の年間2%除外値が0.10mg/m ³ 以下

注：環境基準の評価方法（長期的評価）を記載した。

表 5-2-1-1-2(3) 調査結果（降下ばいじん量）^{注1}

地点番号	春季	夏季	秋季	冬季	指標値 ^{注2}
	t/km ² /月	t/km ² /月	t/km ² /月	t/km ² /月	
01	1.25	0.89	1.85	1.98	20t/km ² /月

注1：調査結果は、バックグラウンド濃度と建設機械の稼働による寄与分の合計となる。

注2：スパイクタイヤ粉じんにおける生活環境の保全が必要な地域の指標20t/km²/月（「スパイクタイヤ粉じんの発生防止に関する法律の施行について」（平成2年環大自84号））を、環境を保全するうえでの降下ばいじん量の目安とした。

なお、環境影響評価書では、建設機械の稼働による寄与分については、上記指標値から降下ばいじん量の比較的高い地域の値である10t/km²/月（平成5年～平成9年の全国の一般環境大気測定局における降下ばいじん量データの上位2%除外値）を差し引いた10t/km²/月を、整合を図るべき基準等の参考値とした。

表 5-2-1-1-2(4) 調査結果（建設機械の稼働に係る騒音）

地点番号	調査結果（dB） ^{注1}		規制基準（dB） ^{注2}
	昼間 L _{A5}	夜間 L _{A5}	特定建設作業
01	47	-	85

注1：調査結果は騒音レベルL_{A5}が、調査の時間帯で最大となった値を示す。

注2：規制基準は以下の通りである。

特定建設作業：「特定建設作業に伴って発生する騒音の規制に関する基準」（昭和43年厚生省・建設省告示）

表 5-2-1-1-2(5) 調査結果（建設機械の稼働に係る振動）

地点番号	調査結果（dB） ^{注1}		規制基準（dB） ^{注2}
	昼間 L ₁₀	夜間 L ₁₀	特定建設作業
01	33	-	70

注1：調査結果は振動レベルL₁₀が、調査の時間帯で最大となった値を示す。

注2：規制基準は以下の通りである。

特定建設作業：「振動規制法施行規則」（昭和51年総理府令第58号）「特定建設作業の規制に関する基準」

5-2-2 水資源（地下水）

5-2-2-1 釜無川橋りょう他（臼井阿原地内）

令和3年度の本工事においては、地上区間の一定区間のモニタリングとは別に、その他調査として作業内容に応じて適宜、水資源（地下水）の計測（水位、水温、pH、透視度、電気伝導率）を実施し、結果を確認しながら工事を進めた。調査地点を図5-2-2-1-1、調査結果を表5-2-2-1-1及び、表5-2-2-1-2に示す。



（本図は自社の測量成果物を用いている）

図 5-2-2-1-1 調査地点図

表 5-2-2-1-1 調査結果（水位）

地点番号	市町村	地点	調査項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
01	中央市	井戸	水位 (m)	1.56	1.60	1.55	1.51	1.62	1.59	1.41	1.43	1.49	1.52	1.62	1.76

表 5-2-2-1-2 調査結果（水質）

地点番号	市町村	地点	調査項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
01	中央市	井戸	水温 (°C)	11.5	13.0	18.0	19.0	22.0	20.5	16.5	11.0	6.6	1.52	8.0	13.5
			pH	7.2	7.7	7.3	7.2	7.1	7.1	7.4	6.7	7.0	7.0	7.9	7.9
			透視度 (cm)	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50
			電気伝導率 (mS/m)	27.8	27.9	27.9	26.8	28.6	25.9	26.6	25.9	34.1	26.6	27.9	26.1

注：「>50」は、透視度が計測可能な最大値である50cmを超過したことを示す。

5-2-2-2 山梨県内高架橋ほか新設工事（利根川公園交差部）

令和3年度の本工事においては、地上区間の一定区間のモニタリングとは別に、その他調査として作業内容に応じて適宜、水資源（地下水）の計測（水位、水温、pH、透視度、電気伝導率）を実施し、結果を確認しながら工事を進めた。調査地点を図 5-2-2-2-1、調査結果を表 5-2-2-2-1 及び表 5-2-2-2-2 に示す。



(本図は自社の測量成果物を用いている)

図 5-2-2-2-1 調査地点図

表 5-2-2-2-1 調査結果（水量）

地点番号	市町村	地点	調査項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
02	富士川町	個人井戸	水量 (L/min)	28.3	27.2	26.9	27.4	27.2	27.0	27.3	26.8				
03		共同井戸		382.2	359.7	367.5	364.4	365.0	366.7	361.1	371.3				

表 5-2-2-2-2 調査結果（水質）

地点番号	市町村	地点	調査項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
02	富士川町	個人井戸	水温(°C)	18.0	17.8	18.3	18.7	18.5	18.0	17.6	17.7				
			pH	7.0	6.7	7.0	6.8	6.8	7.0	7.0	7.0				
			透視度(cm)	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50				
			電気伝導率(mS/m)	23.5	20.0	20.1	20.9	21.0	20.0	19.4	20.4				
03	富士川町	共同井戸	水温(°C)	16.5	17.0	17.0	17.5	17.2	17.4	16.7	16.6				
			pH	7.6	7.5	7.3	7.4	7.6	7.6	7.6	7.4				
			透視度(cm)	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50				
			電気伝導率(mS/m)	29.6	29.0	28.7	28.4	28.1	27.6	27.8	29.4				

注1：「>50」は、透視度が計測可能な最大値である50cmを超過したことを示す。

注2：地点番号02、03の12月～3月は掘削を行っていないため、計測をしていない。

6 工事の実施に伴う廃棄物等及び温室効果ガスの実績

6-1 廃棄物等

工事の実施に伴う、建設発生土及び建設廃棄物の発生量及び再資源化の状況は、次のとおりである。

6-1-1 集計項目

集計項目は、工事の実施に伴う、廃棄物等の状況（建設発生土及び建設廃棄物）とした。

6-1-2 集計方法

集計方法は、各工事における施工実績やマニフェスト等による確認した。

6-1-3 集計対象箇所

集計対象箇所は、笛吹川・濁川橋りょう他、高架橋（小井川線路橋）、釜無川橋りょう他、高架橋（利根川公園交差部）、第三南巨摩トンネルほか、第四南巨摩トンネル（東工区）、第四南巨摩トンネル（西工区）、南アルプストンネル（山梨工区）とした。

6-1-4 集計期間

集計期間は、令和3年度に発生した廃棄物等を集計した。

6-1-5 集計結果

集計結果は、表 6-1-5-1 に示すとおりである。

表 6-1-5-1(1) 建設発生土の発生量

主な副産物の種類	発生量
建設発生土	約 236,000m ³

注1：発生土は、ほぐし土量である。

表 6-1-5-1(2) 建設廃棄物の発生量及び再資源化の状況

主な副産物の種類	発生量	再資源化等の量	再資源化等の率	
建設廃棄物	建設汚泥	約 3,470m ³	約 3,470m ³	100%
	コンクリート塊	約 3,880m ³	約 3,880m ³	100%
	アスファルト・コンクリート塊	約 370m ³	約 370m ³	100%
	建設発生木材	約 2,660t	約 2,660t	100%

注1：「再資源化等の量」の定義は以下の通りとする。

- ・コンクリート塊及びアスファルト・コンクリート塊：再資源化された量と工事間利用された量の合計
- ・建設汚泥、建設発生木材：再資源化及び縮減された量と工事間利用された量の合計

なお、再資源化された量、再資源化及び縮減された量は、運搬先の施設ごとに、発生量にその施設における項目ごとの「再資源化された割合」、「再資源化及び縮減された割合」の実績値を乗じて推計した。

注2：「再資源化等の率」はそれぞれの項目について「再資源化等の量」を「発生量」で除した値（再資源化率または再資源化・縮減率）を示す。

6-2 温室効果ガス

工事の実施に伴う、温室効果ガスの排出の状況は、次のとおりである。

6-2-1 集計項目

集計項目は、工事の実施に伴う温室効果ガスの排出の状況とした。

6-2-2 集計方法

集計方法は、各工事における施工実績や電力会社発行の使用明細等による確認とし、二酸化炭素（CO₂）換算で算出した。

6-2-3 集計対象箇所

集計対象箇所は、笛吹川・濁川橋りょう他、高架橋（小井川線路橋）、釜無川橋りょう他、高架橋（利根川公園交差部）、第三南巨摩トンネルほか、第四南巨摩トンネル（東工区）、第四南巨摩トンネル（西工区）、南アルプストンネル（山梨工区）とした。

6-2-4 集計期間

集計期間は、令和3年度に発生した温室効果ガスの排出の状況を集計した。

6-2-5 集計結果

集計結果は、表 6-2-5-1 に示すとおりである。

表 6-2-5-1 温室効果ガス（CO₂換算）排出量の状況

区分		温室効果ガス（CO ₂ 換算）排出量（tCO ₂ ）		
		小計	行為別合計	
建設機械の稼働	燃料消費（CO ₂ ）	7,839	13,415	
	燃料消費（N ₂ O）	58		
	電力消費（CO ₂ ）	5,518		
資材及び機械の運搬 に用いる車両の運行	CO ₂	7,428	7,466	
	CH ₄	3		
	N ₂ O	35		
建設資材の使用	CO ₂	37,271	37,271	
廃棄物の発生	焼却	CO ₂	5	6
		N ₂ O	0	
	埋立	CH ₄	1	
CO ₂ 換算排出量の合計			58,158	

注：四捨五入して「0」となった場合は「0」と記載した。

7 業務の委託先

環境調査等に係る一部の業務は、表7-1に掲げる者に委託して実施した。なお、委託した業務のうち、山梨県においては、主にアジア航測株式会社及び国際航業株式会社が担当した。

表7-1 業務の委託先

名 称	代表者の氏名	主たる事務所の所在地
ジェイアール東海 コンサルタンツ株式会社	代表取締役社長 岩田 眞	愛知県名古屋市中村区 名駅五丁目33番10号
アジア航測株式会社	代表取締役社長 畠山 仁	東京都新宿区 西新宿六丁目14番1号
パシフィック コンサルタンツ株式会社	代表取締役社長 重永 智之	東京都千代田区 神田錦町三丁目22番地
国際航業株式会社	代表取締役社長 土方 聡	東京都新宿区 北新宿二丁目21番1号
株式会社 トーニチコンサルタント	代表取締役社長 横井 輝明	東京都渋谷区 本町一丁目13番3号
株式会社 復建エンジニアリング	代表取締役社長 川村 栄一郎	東京都中央区 日本橋堀留町一丁目11番12号

注：令和4年6月時点の情報

上記のほか、工事中の環境調査等に係る業務のうち、工事の実施に関わる一部の測定は、表7-2に示す工事請負業者が実施した。なお、笛吹川・濁川橋りょう他、釜無川橋りょう他については、鉄道・運輸機構に工事を委託している。

表7-2 測定を実施した工事請負業者

主な実施箇所	工事請負業者の名称
笛吹川・濁川橋りょう他	大林・東亜・寄神 中央新幹線、笛吹川・濁川橋りょう他 特定建設工事共同企業体
高架橋（小井川線路橋）	中央新幹線山梨県内高架橋ほか新設工事共同企業体
高架橋（臼井阿原地内）	
高架橋（利根川公園交差部）	
釜無川橋りょう他	鉄建・コーアツ・東鉄 中央新幹線、釜無川橋りょう他 特定建設工事共同企業体
第三南巨摩トンネルほか	中央新幹線第三南巨摩トンネルほか新設工事共同企業体
第四南巨摩トンネル	中央新幹線第四南巨摩トンネル新設（東工区）ほか工事共同企業体 中央新幹線第四南巨摩トンネル新設（西工区）工事共同企業体
南アルプストンネル	中央新幹線南アルプストンネル新設（山梨工区）工事共同企業体

注：令和4年6月時点の情報